

中 1 英語・数学の時間増加について

上記見出しにつき、2010年度まで2時間30分で行ってきた中1の数学・英語の授業を2011年度9月から30分増やして、午後6時50分から9時50分までの3時間とさせて頂いて来ました。本年度も同様に致したく、ここに御案内させていただきます。

① 時間増加必要の理由

① 高校入試の難化

長年続いてきた「ゆとり教育」からの脱却、学力(特に理・数)の強化という国の教育方針の大きな転換の中にあって、高校入試もまた大きく変わってきています。2017年度入試より、大きな変革が起きました。思考力、判断力、表現力がより重視されるようになり、実際、英語を中心に非常に点が取りにくくなり、また全教科とも高い「読解力」と「思考力」が要求される、レベルの高い問題に変わってきました。中学の教科書が劇的に難化した3年前から考えれば、公立高校の入試が今後これまでに以上に難化するのには想像に難くありません。昨年度からの1番の変更で、受験生にとって最も大きな負担となったのは、「入試が2週間早まった」ことです。生徒さんにとっては、より短い期間の中で高いレベルの実力をつける必要がある訳で、一層の負担増は避けられないと思います。

②こういった中で、高校入試の難化のみならず、学校の定期テストもどんどん難しくなって来ています。高校入試の難化を受け、学校の定期テストが今後さらに一層難しくなって行くことも、容易に予想できます。私自身も中1の英・数を週1回1年を通して担当させて頂いていますが、中1の後期の英・数2時間30分では限界を感じ、2011年度の後期より3時間

授業にした次第です。

実際、今日の各中学校の前期・期末テストの問題は6年前くらいよりおしなべて難しくなっており、よって、平均点も低いという現状です。(量が多く、レベルも相当に上がっています。この4年間は、コロナ禍にあって学校毎・教科毎にバラバラという感じですが。)

そこで、対応策として、中2・3のように英・数の授業を週2回とするのではなく、英・数は週1回のままで、時間を30分多くする、という方法をとった訳です。30分多くするだけで授業の量は当然として、質も相当に上げられると確信しています。(今の入試レベルを考えると正直、苦しくはありますが…。)

② ①上記述べました趣旨を御理解頂きまして、早速ですが9月からの午後6時50分～9時50分までの英・数3時間授業にどうか御賛同・ご協力くださいます様、お願い申し上げます。

とにかく、お預りしている生徒さんの実力を伸ばし、「結果」を出して、「自信」をつけてもらう、そのことに神田塾講師は一丸となって当たらせて頂きます。

② 時間増加に伴い、甚だ心苦しいのですが、授業料月17,000円を18,700円(消費税込み)とさせて頂きたいと存じます。この点、大変恐縮ですが、何卒御理解を賜りたく存じます。どうか、宜しく御願ひ申し上げます。

2024年 8月
神田塾 塾長 神田隆巳

*以下は、中3の「土曜講習」の案内につけたものです。中1・2の皆さんにとっても参考になると思います。

重要 高校入試とスマホ及びゲームにつき

①5年前大手各新聞は、一斉に『ゲーム障害』を取り上げました。未だかつてなかったことです。

中日新聞では5年前7月8日に一面を割いてスマホ、ゲームの「恐さ」を指摘し、4年前8月4日の社説では、「ゲーム障害」と題して、WHO（世界保健機関）が「国際疾病分類」に依存症の1つとしてゲーム障害を加えた、と記載しました。「ギャンブルやアルコール、薬物などの依存症と同様に、脳の機能に障害が生じる。ゲームで得られる快楽は、覚せい剤を投与されたのに匹敵するという指摘さえある。自らの意志では断ち切れなくなるから恐ろしい。」とし、「特に心身共に発達途上の若い世代への広がり強く憂慮される。」とした上で、最後に、「スマホ業界、ゲーム業界にも知恵を絞るべき責任がある。」と結んでいます。（数日後にも、中日新聞は同じ内容の記事を載せています。）「朝日」「読売」「毎日」等も同様の内容の記事を載せています。

② 実にあいまいな表現ですが、何よりも「大手新聞が、スマホやゲームの依存症を載せた事実」が、事の重大さを如実に物語っています。名古屋市内で心療内科を営んでいる私の大学時代の友人の医師に言わせれば、「何を今頃。」とのことですが、そのくらい以前からこの問題は起きていて、根が深い、というものです。

③ 私がスマホの弊害（恐さ）（当初はいわゆる「ガラケー」でした）を知ったのは今から14年ほど前です。弊害として実際に私が塾生を見てきて体験したことをここに書いたら、その人数、内容も含めて、塾生よりも、むしろ保護者の皆様が驚愕されると思います。面談等で話すと、「オーバーじゃないか。」と感じられる方が多いみたいですが、事実しか話していません。

④ 体験した具体例は、ここでは一切書きませんが、私が強調したいのは、高校受験（中3生はもちろん、中2・中1生にとっても）にとって、スマホ及びゲームは、百害あって一利なし、どころか、人生をダメにしてしまう怖れさえ持っている、ということです。受験生にとって12月～2月は、かなりのプレッシャーがかかります。

目先のプレッシャーから逃避するには、手元にあるスマホやゲームをする（＝のめり込む）のが一番手っ取り早いでしょう。その結果一気に「ゲーム脳」になり、脳が極端に疲れ、知識の吸収を受け付けなくなり、思考力を奪い、ひどい場合は「依存症」へとさえなってしまう。（これも塾で実際にそういう生徒を見てきています。塾に来た時、その生徒はゲームの為に朝起きることが出来なく、すでに学校へ行っていなかったのですが。）親には見えていなくても、一時的に現実逃避しようとする受験生の中には、朝までベッドの中でゲームをする人もいます。入試当日の朝までゲームをし、一睡もせずに受験した生徒さえいます。（勿論、不合格でしたが。）

⑤ スマホ、ゲームの弊害は、成績が良い、悪いに関係ありません。そしてまた、学年にも関係ありません。ある程度以上スマホに触れ、ゲームをしている生徒は、ある日から突然塾の授業中、必ず同じ行為をします。勿論、私達はすぐに手を打ちますが、その時点では、相当危ういところまで来ているのもまた共通するところで

⑥ 一般論ですが、高校生がスマホやゲームに触れるのと、中学生とでは、全く違います。中学生は、簡単にはまり、そして、依存するようになります。本当は中学生の全員に言いたいのですが、あえて中3受験生に再度（何度も何度も言ってきたことですが。）言います。スマホ及びゲームとは即刻手を切り、強い意志を持ってエネルギーの全てを高校受験にぶつけてください。人生の初めての関門にあたって、「努力すべき時に自分は精いっぱい努力をした。」そういう実体験をして欲しいと、心から私達は願い、指導させて頂いています。人生最初の関門での「頑張り」は必ず、お金では買うことのできない一生の貴重な財産となるはずで

（参考までに、今の高2生は中3時、塾で22名が「スマホ」を預かってくれと来ました。そのほとんどの人が学年「5番以内」に入って入試を迎えました。）

《参考文献》

『スマホ脳』

アンデシュ・ハンセン著（新潮新書・発行）1,078円

*世界的にベストセラーとなっているようです。是非お読みください。

（塾でも販売しています。）